

## 東京 SJCD 第 1 回ステップアップミーティングのご案内

残暑の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、来る 9 月 7 日(日)に開催いたします『東京 SJCD 第 1 回ステップアップミーティング』につきましてご連絡申し上げます。今回のステップアップミーティングでは会員の先生に多岐にわたる分野においてケースプレゼンテーションを中心とした発表をしていただきます。また、一部は、診査・診断まで行われているケースに対し皆様とともに治療計画などをディスカッションしていくといった形式でステップアップミーティングを進行していく予定です。前回同様、1 つのケースを会場全体で熟慮しより有意義な参加型ディスカッションを行えるよう、ディスカッションの時間を十分に確保いたしました。皆様の日々の臨床のステップアップにつながれば幸いと存じます。

また、今回も東京 SJCD 会員同士の親睦を深めるためにステップアップミーティング終了後、懇親会を開催します。あわせて皆様お誘い合わせのうえご参加いただけますようお願いいたします。

**日時:2014 年 9 月 7 日(日) 13:00~16:40 受付 12:30 懇親会 17:00~19:00**

**場所:お茶の水ソラシティ カンファレンスセンター2F・ソラシティーイースト(地図別紙参照)**

【タイムテーブル】 開会 13:00

13:00~14:00 山口宜伸 先生

所属:山口よしのぶ歯科医院

演題:「SJCD フローチャートを用いて包括的治療に対する診査診断」

休憩 14:00~14:20

14:20~15:00 高山祐輔 先生

所属:ワタナベ歯科医院

演題:「複数部位欠損症例に対し咬合機能回復を行った一例」

15:00~15:40 高橋俊一郎 先生

所属:高橋歯科医院

演題:「下顎無歯顎患者にボーンアンカーブリッジ(All-on-4)を用いた即時荷重症例」

賛助企業ご挨拶、休憩 15:40~16:10

16:10~16:40 岡口守雄 先生

演題:「Back to the basic」

閉会 16:40

懇親会 17:00~19:00

- \*東京 SJCD の会員は無料で御参加頂けます。事前の予約等は必要ありませんので当日直接、会場へお越し下さい。
- \* 一般のビジターは Dr.3 万円・Dt.1 万 5 千円・Dh.9 千円となります。(予約不要)
- \* 会員登録は入会された本人に限り有効です。例会・分科会等への代理参加は、同じ医院にお勤めでもお受け致しかねますのでご了承ください。
- ※ 東京 SJCD 会員の方は必ず会員証をご持参ください。
- ※講演中の撮影はご遠慮ください。

## 会場

お茶の水ソラシティ カンファレンスセンター Room C (<http://solacity.jp>)  
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 4-6  
TEL 03-6206-4855

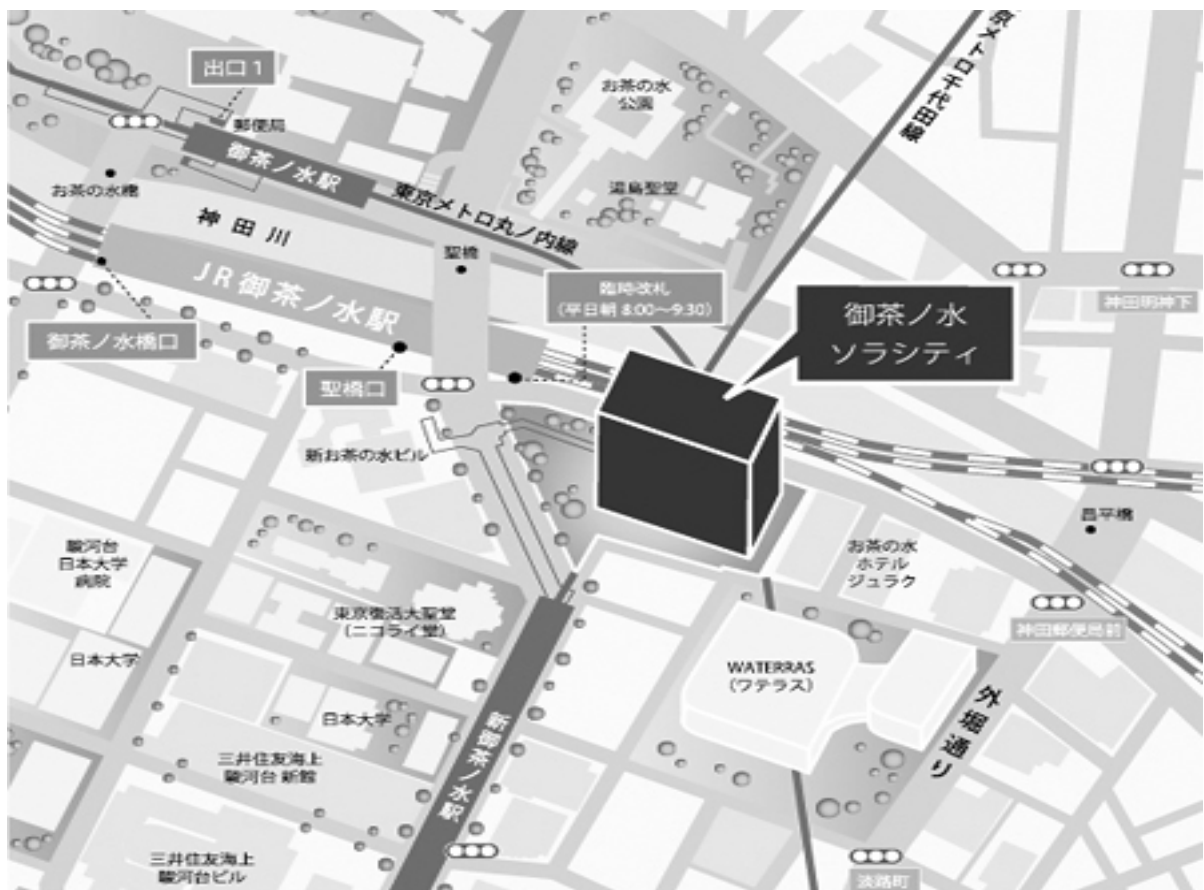
## 交通案内

### JRをご利用の場合

- ・JR中央・総武線「御茶ノ水」駅 聖橋口より、徒歩1分

### 地下鉄をご利用の場合

- ・東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅 B2出口1直結
- ・東京メトロ丸の内線「御茶ノ水」駅 出口1より、徒歩4分
- ・都営地下鉄新宿線「小川町」駅 B3出口より、徒歩6分



## 山口よしのぶ歯科医院 山口宜伸

### 演題

「SJCD フローチャートを用いて包括的治療に対する診査診断」

### 略歴

2003年 日本大学松戸歯学部卒業  
2007年 原田歯科クリニック勤務  
2010年 東京 SJCD レギュラーコース受講  
2012年 東京 SJCD マスターコース受講  
2013年 山口よしのぶ歯科医院開院

### 抄録

非常に複雑なケースでも SJCD フローチャートに沿って治療を行っていくことが成功の鍵になってくる。一口腔単位の診療を行う上で基礎資料の収集に基づき慎重な診査診断、予知性の高い治療計画が重要となる。臼歯部咬合崩壊を伴い咬合再構成を必要とする症例を通じて考察していきたい。

## 医療法人社団同仁会 ワタナベ歯科医院 高山祐輔

### 演題

「複数部位欠損症例に対し咬合機能保全を行った一例」

### 略歴

2004年 日本大学歯学部卒業  
2004年 医療法人社団同仁会ワタナベ歯科医院勤務  
2012年 東京SJCDレギュラーコース修了  
2013年 東京SJCD原宿マスターコース修了  
2014年 東京SJCDマイクロコース（ベーシック、ペリオアドバンス）修了

### 抄録

77歳女性の患者。

初診時、臼歯部の欠損状態を放置していた事により問題が起こり始めていました。

それに対応すべく、治療予後の安定を考え全顎的に治療を行った症例です。

患者の要求やバックグラウンドを配慮した上で治療計画を立案し、理想的な治療結果を目指しました。

演題

「下顎無歯顎患者にボーンアンカードブリッジ (All-on-4) を用いた即時荷重症例」

略歴

- 1995年 日本歯科大学卒業
- 1995年 東京都大田区 河野歯科医院勤務
- 2000年 東京 SJCD レギュラーコース修了
- 2001年 神奈川県大和市 高橋歯科医院開設
- 2010年 SJCD マイクロペリオアドバンスコース修了

抄録

顎堤の吸収が著しい特に下顎全部床義歯の維持安定を図ることは困難なケースが多い。本症例は下顎全部床義歯において、顎堤吸収により義歯床が浮き上がり、咀嚼時にも維持安定が得られず患者の QOL の改善が困難なため、インプラントを使用した上部構造にて、患者の主訴の改善に応えることになりました。

また、インプラントオーバーデンチャー (可撤性上部構造) を考慮に入れましたが、患者の希望が義歯床のない固定性上部構造であることと、顎堤の状態から臼歯部にはインプラントの埋入が困難なため、オトガイ孔間に4本のインプラントを用いたボーンアンカードブリッジ (All-on-4) を選択し、修復した症例を報告させていただきます。

前述のインプラントオーバーデンチャー (可撤性上部構造) も治療の選択肢ではありますが、現状の全部床義歯に違和感があり可撤性を許容できない患者に対し All-on-4 のコンセプトに基づき固定性上部構造であるボーンアンカードブリッジが無歯顎患者に対し有意義となることが本症例発表の理由となりました。皆様のご意見等ご教授頂ければ幸いです。